

長谷川慶太郎著「2014 長谷川慶太郎の大局を読む」李白社、2013 年 9 月 30 日発刊を読む

1. メモを取り続ける首相たち

- (1) 私は安倍晋三という男を古くから知っている。父親(安倍晋太郎)の時代からすでに 40 年を超える付き合いがある。私は安倍氏の選挙の応援のために山口県の選挙区まで何度も応援演説に行ったことがあるから、安倍氏がどんな性格や習性の持ち主かについても知識がないわけではない。
- (2) 安倍氏が当時の小泉純一郎首相から指名の形で政権を受け継いだのは 2006 年 9 月だった。このとき安倍氏は形式的に総裁公選に出たけれども実際には最初から総裁に選ばれることが決まっていたので総裁選はたんなる形式にすぎなかった。本来、政権に就いた安倍首相は郵政改革を行った小泉路線を継承すべく日本経済の徹底した情勢判断と分析を行うべきであった。にもかかわらず、美しい日本などという一種のイデオロギーで政治をやろうとしたために失敗して政権を去ったのである。
- (3) 二度目の安倍政権は 2012 年 12 月 26 日に発足した。私はその直前の 12 月 20 日、ある会合で安倍氏と会ったのだが、彼のほうから「長谷川先生、お元気そうですね」と声をかけてきたのをきっかけに立ち話となった。私はすぐに安倍氏の腹の座り方に驚いた。最初の政権を手放す直接の要因だった潰瘍性大腸炎などという病気の面影もまったくなかった。安倍氏は自信に溢れており、以前とは大変な違いである。
- (4) また、前回の政権のときは美しい国を他人に宣伝することに非常に熱心だった反面、他人の話にはまったく耳を傾けようとしなかったのだが、今回は違った。「長谷川先生、最近の経済情勢はどうですか」などと一生懸命聞いてくるのである。これにはさらに驚いた。
- (5) 政権を手放して後の 5 年間、そうとう苦労したに違いない。安倍氏は一生懸命にメモを取るようになっていた。これこそ長期政権を担う首相の大きな特徴だ。困難な国鉄民営化を成し遂げた中曽根康弘首相もそうだった。約 5 年間政権の座にあった中曽根首相はコクヨの小さなノートに相手から聞いた話を全部書いていた。しかも、そういう話から頭に浮かんだ自分のテーマも記す。
- (6) 私は中曽根首相と話した後に本人に直接こう訊いたことがある。「総理、メモを取っておられますが、そのメモは後ですぐに屑籠行きですか」。すると中曽根首相は「何ということをおっしゃるのか」と目をむいた。そして、「ノートに書いたことは 3 ヶ月ごとにすべて見直して、そのなかでやり残したことがあれば、次のノートに書き写しているんですよ」と苦笑いしながらいう。「そうですか。恐れ入りました」と私が応じると、中曽根氏はうれしそうに「あなたのようにずばりと訊いてくれる人がいると本当のことを話すことができる」といった。

(7)約 5 年 5 ヶ月政権を維持した小泉首相もメモを取っていたが、小泉首相はずば抜けた頭脳の持ち主なので人から聞いた話は全部すぐに覚えてしまう。私は小泉首相にも「人の話を聞いて忘れることがありますか」と訊いた。「長谷川さん、あなたの話を全部忘れろというのかね。失礼な。自分のいっていることがわかっているんですか」というのが小泉首相の返事だった。小泉首相本人によれば、人から聞いた話は家に帰ってからもう一度思い出してノートに書き出して整理するとのことだ。

(8)小渕恵三首相は病気で倒れたために 1 年 8 ヶ月しか政権が続かなかったが、やはりメモが好きだった。一緒に飯を食べながら話すと、いつも割り箸の箸袋にメモをする。自分の箸袋だけで足りなくなって「長谷川さん、あなたの箸袋を寄越してよ」というので、自分の箸袋を渡したこともあった。小渕首相はそのメモを持ち帰って必ず整理してノートに書き記していた。

(9)メモをしっかりとるのは関心のある重要なテーマについて技術的な問題も含め細部にわたる情報を集めるためだ。そのような努力を継続的行わなければ、やはり首相として政権を長く維持できないのである。

P53 ~ 55

2. これからの日本、これからの世界

(1)2012 年の大統領選で勝利し 2 期目を迎えたバラク・オバマ。幸運にもまさにこれからシェールガス革命が本格的に花開こうとしている。私はシェールガス革命についてはもう何年も前から世界のエネルギー市場に革命的な変化をもたらすと指摘してきた。その先導役がアメリカだが、シェールガス革命によって海外に出ていたアメリカの製造業が国内に回帰し始めアメリカの景気も回復してきている。好調な自動車の売れ行きが示すように消費もリーマン・ショック以前に戻ってきたし、ニューヨーク株式市場のダウ平均株価も 2013 年に入って最高値を更新し続けている。

(2)アメリカ経済は力強く回復してきており、アメリカ人勝ちの様相を呈してきているといえる。それを追って景気が上向いているのが日本にほかならない。日本では 2012 年 12 月 16 日に総選挙の投開票が行われ民主党に代わって自民党が政権に返り咲いた。新しく政権を率いることになったのが安倍晋三首相だ。政権発足直後に打ち出した安倍首相の経済政権いわゆるアベノミクスによって日本経済も息を吹き返したのだった。

(3)もっとも、それ以前の衆議院解散の時点ですでに株は上昇し始め為替は円安へと転じたのだが、アベノミクスはそれにさらに拍車をかけ、2013 年 5 月下旬まではほぼ一本調子で株が上がって円も安くなった。その後、いったんは調整局面が来たものの株高円安の基調は変わらなかったのがある。安倍首相がアベノミクスの手綱を緩めなかったからだが、このままアベノミクスが力強く展開していくなら日本の景気も本格的に回復していく。それには好業績を出す日本企業が続出するようになったことも大きく寄与する。したがってアメリカ人勝ちのなかにまず日本が加わることになる。

- (4) 一方、世界経済の大きな懸念材料はやはり隣国の中国である。企業活動が衰え不動産バブルも弾けてしまい、シャドーバンキング(影の銀行)によって巨額の不良債権が積み上がってしまった。そのシャドーバンキングが破綻すれば最大のスポンサーの人民解放軍による国内の政治的な混乱も懸念される。今や中国は崩壊に向かう時限爆弾を抱えているようなものだ。
- (5) 中国の衰退によって資源の輸出先を中国に大きく依存していた新興国も大きな打撃を受けている。加えてアメリカの金融緩和縮小の予測によりそれまで新興国に入っていた短期の投機資金が引き揚げられてしまった。そのための多くの新興国が通貨安および物価高に見舞われることになったのだ。もはや新興国が世界経済を引っ張った短い時代は過ぎ去ってしまった。
- (6) ヨーロッパ経済も相変わらず停滞したままである。それは今後も長期間続くだろう。ただしドイツだけは例外だ。輸出も雇用も拡大しヨーロッパで唯一の経済的勝者となっている。その結果、ドイツによるヨーロッパ支配はますます強まってきた。それが続く限りユーロも EU もけっして崩壊することはない。
- (7) アメリカではオバマ再選によって、日本では安倍首相が総選挙に続き 2013 年 7 月の参院選にも勝利したことによって両国の政権基盤が一段と強化された。同様にドイツ首相のアンゲラ・メルケルも 9 月の連邦議会選挙に勝利するので政権基盤が強くなる。結局、日米にドイツも加えた 3 カ国がいずれも強固な政権基盤に支えられて世界経済をしっかりと支えていくだろう。
- (8) 日本に話を戻せば、今後 3 年間は大きな国政選挙はないが、3 年後にはおそらく衆参同日選挙となるだろう。同日選なら与党が圧勝して安倍首相はさらに 3 年間政権を担うことになる。つまり、これから 6 年かけて安倍首相は日本の改革に臨むことができるのである。となれば、憲法改正や公務員改革、教育改革、北方領土問題など日本の大きな懸案をゆっくりと確実に片付けていけばいい。また安倍首相はそうにするだろう。6 年後の日本は活力と成長力にあふれた国として蘇っているはずである

P1 ~ 4

[コメント]

日本国のリーダー、特に長期政権の日本の首相に共通してみられる特徴を、長谷川慶太郎先生は、メモを取り続けること、取ったメモを整理し続け、活用し続けることと教えてくださった。学校や開倫塾の授業中にノートを取り続けること、取ったノートを整理し続け、それを活用し続けることは学力向上だけではなく、学校を卒業して社会に出てからも役に立つ。日本国の首相になってからも役に立つ。このメモとノートの効用について大いに考えたい。自分でも参考にし、子どもたちにも伝えたい。2013 年 9 月 7 日、アベノミクスに 4 本目の矢、2020 年東京オリンピック・パラリンピック開催が加わった。安倍首相が健康問題を乗り越え、東京オリンピック・パラリンピックをも活用しながら日本経済を再建の軌道に乗せることは全日本国民の願いであり、世界からも期待されているところだ。1927 年生まれの長谷川先生が文字通り命を懸けて読者のため、また、日本の発展のために調査・研究に励み本書をご執筆されている姿には頭が下がる。有難い限りだ。